２００６年度事業報告

１．事業報告全般：

会誌編集、出版事業、研修事業、情報検索能力試験、シンポジウム、西日本委員会の各委員会による 2006 年度事業活動は収支面で満足できる結果を出した。特に西日本委員会企画運営の「サーチャー講座 21」、研修委員会による新年会併設新春セミナー「コミュニケーションスキルを磨く」、および第 3 回情報プロフェッショナルシンポジウム（INFOPRO2006）は、集客においても例年にない多くの参加者を得ることができた。また情報検索能力試験実施においては、通常の公開試験会場とは別に４会場の個別試験会場で実施し受験生の拡大に貢献した。さらにその内２会場では対策セミナーを開催し盛況であった。

このように 2006 年度は各種事業の集客数がはっきりと増加傾向になっていることが確認されたといえよう。しかしながら集客数が収入増と会員増に反映されたのは一部のみであったため、各委員会にはより一層のビジネスマインドが求められる。一方編集委員会は安定した会誌の刊行を維持し、魅力的な特集を組む専門誌として業界での地位を固めた。出版委員会は新規タイトルを出版できなかったが、２級受験参考書の企画に集中し、次年度に発行が予定されている。また、既刊タイトルの販売促進に注力できた。

新規事業に関してはいくつか企画を検討したが、本年度においては人材確保と収支予測の面などから、いずれも採用に至らず、次年度への課題となった。

２．２００６年度役員および担当　（○は 2006 年度選出）

理事（東日本地区）

○小山内正明　出版委員会（副）、事業推進委員会（正）、運営委員
○北島由紀子　研修委員会（副）、運営委員
○木村美実子　試験実施委員会（副）
○真銅　解子　副会長、運営委員
　鈴木　博道　OUG（正）、運営委員
　立花　肇　　会長、運営委員会委員長
　田村　紀光　事務局長、運営委員
○殿崎　正明　複写権問題対策委員会（正）
　長塚　隆　　著作権問題委員会（正）
○長縄　友子　試験実施委員会（正）
　平井　邦造　副会長、運営委員、会員拡大対策委員会（正）
○藤村　和男　SIG(正)
○松下　茂　　事業推進委員会（副）、広報委員会（正）
　三沢　一成　出版委員会（正）、運営委員
　吉井　隆明　研修委員会（正）
　山崎　久道　会誌編集委員会（正）

理事（西日本地区）

田窪　直規　　西日本委員会

○馬場　健次　　西日本委員会

三村　智子　　西日本委員会

○村山　博一　　西日本委員会

監事

土谷　久

○西垣　幸雄

評議員（東日本地区）

大塩　稔　　○小河　邦雄　　岡本　真　　○梶　正憲　　○木本　幸子

小山　憲司　　杉山　尚子　　高山　正也　　手塚　久男　　○時実　象一

長尾　頼子　　松谷　貴己　　三浦　敬子　　山口　哲雄　　柳　一美

評議員（西日本地区）

稲葉　洋子　　○板橋　良則　　岡　紀子　　河塚　幸子　　田中　邦英

○高橋　和子　　○羽田　幸代　　○増田　知子

3．会員異動

種別	2005年度末	入会	脱会	増減	2006年度末
維持会員	73	1	5	-4	69
特別会員	128	4	6	-2	126
普通会員	1,449	145	176	-31	1,418
学生会員	50	17	13	4	54
合計	1,700	167	200	-33	1,667

4．会議開催状況

1）　通常総会　---------1回

第49回通常総会および協会賞表彰式　2006年5月23日（火）

議題：

1．2005年度事業報告および決算報告

2．2006年度事業計画案および予算案

3．会誌著作権規程の見直し

4．2006年度～2007年度役員選挙

5．第31回情報科学技術協会賞表彰

・情報功労賞　　石井浩殿、　高橋和子殿

・教育・訓練功労賞　川村剛殿、　真鍋解子殿

・協会事業功労賞　　西日本委員会殿

6．永年普通会員　　固武龍雄殿

2） 理事会 -------- 6回

3） 評議員会 -------- 1回 (2007年2月28日（水))

4） 委員会

運営委員会 ----------9回　シンポジウム実行委員会 --- 5回

表彰者選考委員会 -----1回　認定試験実施委員会 ------ 10回

事業推進委員会 -------9回　著作権問題委員会 ---- メーリングリストにより実施

会誌編集委員会 -----12回　複写権問題対策委員会 --------4回

出版委員会（臨時）--- 2回　西日本委員会 ----------6回

研修委員会 - -------- 4回　会員拡大対策委員会------メーリングリストにより実施

5 刊行事業

5．1 会誌刊行事業

会誌刊行事業における2006年度の目標の一つは，前年度に引き続いて安定した発刊(当月1日)及び配送であった。ほぼ全号達成された。ただし，誤植が散見された号があったことは反省すべき点である。編集担当として直接の責任があるところではなかったものの，事務局負担の軽減を会誌編集委員会としても考えるべきかもしれない。

会誌の内容については，もう一つの目標である，特集を中心とした編集方針を推進し，適宜投稿論文を加え，情報担当者の世界で話題になっているトピックをかなり深く掘り下げることができた。情報担当者にとって，必要な知識を得るための最新の情報源として，あるいは必要なときに直ちに参照できるように組織化された編集を遂行することができた。

今年度より，情報プロフェッショナルシンポジウムのみで特集を1号組む体制に戻ったが，シンポジウムの全体内容を記録する観点から，評価できると考えている。

連載は，慶應義塾大学のHUMIプロジェクトの全貌を記載したもので，当初予定通りちょうど1年で完結した。具体的な例示が数多く含まれ，好評を博した。

【特集】

2006年

4月号 システムライブラリアン育成計画

5月号 無料で利用できるデータベース

6月号 デジタルネットワーク時代の著作権

7月号 情報活動と標準規格

8月号 Infoproならこれを読んでおこう

9月号 価値観の交差点

10月号 情報のフィルタリング

11月号 図書館とWeb2.0

12月号 資料・データを捨てる

2007年

1月号 韓国のいま

2月号 統制語彙・シソーラスの現在

3月号 第3回情報プロフェッショナルシンポジウム

【連載】 HUMI プロジェクトの貴重書デジタルアーカイブ
【コラム】 INFOSTA Forum

5．2　一般刊行事業

今年度の一般刊行事業については、新規刊行として２冊程度を予定したが、委員会体制の整備ができず、これまでに刊行した出版物の増刷での販売を行ってきた。

２級受験対策のテキストとして、2006 年度内発行で進めてきたが、年度内での発行は出来ず次年度発行の予定とした。

6．普及研修事業

6．1　研修会・セミナー

大阪、東京の両地区で開催した情報検索応用能力試験 2 級および情報検索基礎能力試験の受験対策セミナーの実施は、昨年度に引き続き大きな成果を得た。

実務ノウハウに関するセミナーでは、サーチャー業務のステップアップ方法やビジネス情報の見方に関する企画を実施し、活発な質疑応答が行われるほどの活性セミナーであった。

また、新たな試みとして、INFOSTA 事業の活性化を目的に、新年会とセミナーの両イベント合わせて参加しやすいように企画を行い、新年会の参加者増に貢献するとともに、会員獲得にも繋がった。

研修一覧

名　　称	期　日	会場	参加者数
見学会「東京大学柏図書館」	2006/05/19	東京	27
見学会「奈良県立図書情報館」	2006/05/19	大阪	25
ホスピタリティー	2006/07/05	東京	32
著作権法の動向 2006	2006/07/28	大阪	29
見学会「サンメディア」	2006/07/28	東京	30
情報検索基礎能力試験対策セミナー	2006/09/02	大阪	25
情報検索基礎能力試験対策セミナー	2006/09/02	東京	34
情報検索基礎能力試験対策セミナー	2006/09/24-25	鳥取	92
情報検索基礎能力試験対策セミナー	2006/09/17	北九州	50
サーチャー講座 21	2006/09/16-17	大阪	43
サーチャー講座 21	2006/09/30-10/01	東京	52
研究開発効率化のための分子設計法	2006/10/06	大阪	17
サーチャー業務のステップアップを目指せ	2006/10/27	東京	29
Infopro のためのビジネス情報入門セミナー	2006/12/06	東京	36
新春セミナー コミュニケーションスキルを磨く！	2007/01/19	東京	55
英文特許の読み方・書き方	2007/03/19	東京	11

６．２　シンポジウム

2006年度も（独）科学技術振興機構との共催でINFOPRO2006を開催し、400名を超える参加者を得て盛況のうちに実施できた。

特別講演は慶應義塾塾長の安西祐一郎先生による「情報社会の本質的な変化」」の演題で行なわれ会場が満席になる盛況であった。

また、トーク＆トークとして「学術情報の流通・利用と著作権」を開催し多くの関心を集めた。

会　期　　：　2006年11月16日～17日

会　場　　：　日本科学未来館（お台場）

一般発表　：　10セッション　23件

展示コーナー：JSTは、Science Portal, JDreamⅡ、ジャーナルアーカイブ、J-STAGEを紹介。
INFOSTAは、研究会（OUG,SIG）　のポスター展示を行った。

６．３　情報検索能力試験

今年度は公開試験会場とは別に、個別実施会場の要望があった大学などと、事務局で交渉を進め、その結果４会場の個別会場で試験の実施ができた。

個別会場での実施範囲概要

- 情報検索基礎能力試験に限定
- 受験者数規模　15名以上の受験者数を確保
- 試験会場は無償提供を前提
- 試験監督官は申し出会場の責任者に協会から委託する

個別実施会場：九州女子大学、別府大学、藤女子大学（札幌）、鳥取県立図書館

この個別会場実施を含め、受験申込者数が1,159名（前年1,007名）であり、前年比152名増の事業拡大が達成できた。

併せて、個別会場実施の報告記事を４会場の責任者から会誌記事として寄稿頂き、今後、他の大学での実施検討に大いに参考となった。

個別実施会場の先生および担当者の熱望が、学生など試験者に対して、この試験へチャレンジすることにより、資格取得と共に情報検索コースのスキルアップに、つながったことと確信する。

- 公開の会場としては、2006年度は筑波会場を再開し、受験会場は全国７会場とした。
- 試験後は、予定通り早期に合格発表を行い、「合格を祝う会」を東京地区（3月9日）と大阪地区（3月10日）で開催した。新規会員およびOUG入会への橋渡しとした。
- 受験申込書作成で改善を図った。　2006年度は申込書一式をホームページから入手できるように改善し、受験者の申し込み事務の効率化、および事務局の事務効率化を図った。（受験申込書印刷費の改善、申込書発送事務の軽減など）
- 継続的課題として、試験問題作成、採点の労力を踏まえ、より円滑な試験運営の検討を行った。

1）2006年度「情報検索応用能力試験」実施結果

1級および2級の受験者数と合格者数、合格率を表に示す。

1級受験者数は2005年度より減少し、2級受験者数は増加した。

2006年度「情報検索応用能力試験」　実施結果

（カッコ内は2005年度実績）

	受験者数	合格者数	合格率	実施日	試験地
2級	224名 (209名)	99名 (90名)	44.2% (43.1%)	2006-11-26	東京(1) 東京(2) 名古屋 大　阪 福　岡 上　田 つくば
1級	21名 (29名)	7名 (11名)	33.3% (37.9%)	2006-11-27(一次)	
				2007-02-18(二次)	東　京

2）　2006年度「情報検索基礎能力試験」　実施結果

（カッコ内は2005年度実績）

ポスター、チラシを試験会場近辺の大学に重点的に送付した結果、受験者が大幅増となった。

合わせて、4箇所の個別実施会場でも実施できた。

	受験者数	合格者数	合格率	実施日	試験地
基礎	811名 (673名)	680名 (551名)	83.8% (81.9%)	2006-11-26	東京(1)、東京(2)、名古屋、大阪、福岡、上田、つくば、北九州、別府、鳥取、札幌

7．調査研究事業

7．1　受託調査、分類付与

1）　受託調査はなかった。

2）　分類付与　：UDC分類付与を1社実施

7．2　標準化活動

1）　国内外の標準化の動向に対処するため国内外の動向調査に努めた。

2）　日本工業標準調査会情報部会 ISO/TC46 情報とドクメンテーション専門委員会に委員を

派遣して協力した。

3） SIST 委員会に委員を派遣した。

7．3 著作権活動

1） 著作権問題委員会

会誌の著作権のあり方について、本委員会による答申に基づく協会案を確定するための調整に対応した。さらに、本件を広報するための文書について、専門的な立場から検討した。また、会誌編集委員会の求めに応じて、「情報の科学と技術」Vol. 56 (2006), No.6 掲載の「特集：デジタルネットワーク時代の著作権」において、委員会の議論の内容を紹介し、会員の理解を求めた。

2） 複写権問題対策委員会

2006 年には著作権法の改正も行われ、これまで提出してきた様々な意見書などがそれなりに反映されても来たことから、これまでの活動が決して間違ってはいなかったことと認識している。委員会は 2006 年に 3 回の開催とメール交換によって、INFOPRO2006 におけるトーク＆トーク「学術情報の流通・利用と著作権」の開催、文化庁に対する「権利制限見直しについての継続審議開始に関する質問書」の提出、知財推進委員会意見募集に対する「知的財産推進計画 2006 の見直しに関する意見書」提出、学術著作権協会に対する「使用料規程改定案（2007 年２月１日実施予定）に関する意見書」提出、など様々な活動を行った。

8．その他の委員会、事業活動

8．1 広報委員会

協会活動の普及、拡大に向けて取り組んでおり、会誌での研究部会の紹介（OUG,SIG） 、メールマガジンの発行などを行った。

さらには、ホームページ改善に向けて作業を開始したが、引き続き次年度へ継続していきたい。 検討の場は、事業推進委員会、試験実施委員会、西日本委員会、研修委員会などよりの要望および 運営委員会、事務局での起案により、事務局にて実行してきたが、全面的なリニューアルが必要であるが、経費面および実行体制面で整備が難しく、次年度以降、継続検討していきたい。

8．2 西日本委員会

西日本委員会は12名の委員で構成し、主に西日本地区に拠点を置く会員に向けた講習会、見学会、会員交流会などを企画立案し、情報活動の支援サービスを行ってきた。

1）委員会の開催(隔月6回)

普及研修事業や見学会などの企画，実施計画，実施報告･反省を中心に円滑な事業運営をすべく、活発な意見交換を行った。

2）普及研修事業

【講習会】4件

（1）著作権法の動向2006

・開催日、場所：2006 年７月28日(金)、中之島中央公会堂
・講師：南亮一氏（国立国会図書館）
・参加者：29名

（２）サーチャー講座２１：情報検索応用能力試験２級受験対策セミナー（２日間コース）
・開催日、場所：
大阪会場：2006年9月16日(土)、17日(日)、大阪産業創造館
東京会場：2006年9月30日(土)、10月１日(日)、日本青年館
・講師：岡紀子氏（住化技術情報センター）、田中邦英氏（イシダ）、
三村智子氏（大日本インキ）、池田剛透氏（多摩大学）
・参加者：95名（大阪43名、東京52名）

（３）情報検索基礎能力試験受験対策セミナー（１日コース）
・開催日、場所：2006 年9月2日(土)、大阪産業創造館
・講師：河塚幸子氏(近畿大学)
・参加者：25名

（４）研究開発効率化のための分子設計法
・開催日、場所：2006年10月6日(金)、大阪駅前第一ビル凌霜クラブ
・講師：矢野邦彦氏
・参加者：17名

【見学会】１ 件
・場所：奈良県立図書情報館
・開催日：2006年5月19日(金)
・参加者：25名

３）会員交流会

（１）じょいんと懇話会

大阪地区のデータベース検索技術者認定試験合格者有志の会「ＩＳフォーラム」と当協会共催で双方の会員および非会員で情報活動に関心の高い人との交流会を実施した。主として西日本地区の会員対象に企画しているが、今年度は関東地区の会員の参加もあった。

・開催日、場所：2006年12月16日(金)、大阪駅前第一ビル凌霜クラブ
・話題提供者：尼川洋子氏（人と情報を結ぶＷＥプロデュース）
・テーマ：ポジティブに働くライブラリアンになるために～
ライブラリーマネジメント･ゼミナールの試み
・参加者：29名

（２）2006年度情報検索応用能力・基礎能力試験「合格を祝う会」
・開催日、場所：2007年3月10日(土)、JST西日本支所研修・会議室
・祝賀先輩サーチャーのお話：中村文胤氏（日本新薬）、太田裕美氏（日本アスペクトコア）
・参加者：１級 １名；２級 ７名；基礎 ３名；　(INFOST から７名)

４）その他

（１）「情報活動研究会」への後援

今年度発足した情報活動研究会の活動に後援した。通算3回開催され、いずれも多数の参加

者があった。情報活動に興味を抱く人材が相互に研鑽しあう研究会としては一定の成果が得られている。

「情報活動研究会: INFOMATES=INFOrmation MAnagement Technology Exchange Square」 とは関西外国語大学の南山先生が提唱され、2006年４月に大阪で発足した研究会であり、情報に関係する方が自由に参加でき、参加者の相互研鑽を行うことを目的としている。 開催頻度は年４回程度を予定。後援団体は （独）科学技術振興機構および（社）情報科学技術協会である。

（２）協会事業功労賞を受賞

８．３　表彰者選考委員会

第 32 回「情報科学技術協会賞」各賞の受賞候補選考を行い、次のように推薦した。

・情報業務功労賞　　土谷久氏、山口哲雄氏
・教育･訓練功労賞　　河塚幸子氏、長塚隆氏
・研究発表賞　　樫村雅章氏
・優秀機関賞　　特定非営利活動法人　医学中央雑誌刊行会
・名誉会員　　木内良一氏
・永年普通会員　　内田尚子氏、川島順氏、笹森勝之助氏、妹尾哲男氏、竹森利清氏

９　部会関連事業

９．１　日本オンライン情報検索ユーザー会（OUG）

化学、ライフサイエンス、インターネット／ビジネス、特許、の各分科会が主査のリーダーシップの基で活発に部会を開催し、その開催回数は 44 回とほぼ毎月 1 回のペースであった。活動は単なる常連メンバーの勉強会にとどまらず、INFOPRO2006 で成果発表やポスター展示を行ったり、見学会や講演会を催したり、宿泊研修会を開催したりと、多様化している。それぞれの分科会の具体的活動結果については以下の分科会報告を参照されたい。

１）　化学分科会　（主査：鈴木理加氏）　開催 11 回（11 月休会、8 月臨時開催）

（１）講演会開催　「ロンドンオンライン会議報告」(2007.1)
「中国の電子ジャーナル事情」(2007.1)

（２）ベンダー他訪問　神奈川県立川崎図書館（2006.6）

（３）勉強会開催　　テーマを決め、各自検索例を持ち寄った。また、各自疑問点を持ち寄って、検討した。

（４）INFOPRO2006 への発表
OUG 化学分科会の活動報告として、「無料検索データベースと商用データベースの比較－Google Scholar, Windows Live, CiNii の情報収録状況比較」を発表した。

２）ライフサイエンス分科会（主査：石井恵子氏）：10 回開催
(8 月休会、11 月は臨時休会、7 月臨時開催)

講演会：6 回

・「海外のライフサイエンス関連情報の最近動向　-Online Information2005 参加報告および

BioMedCentral の概要と最近の動向-」(3 月)
・「JDreamII と JST 大規模辞書の紹介」(4 月)
・「STN ライフサイエンス系ファイルの強化」(6 月)
・「SLA 参加報告及び BIOSIS Previews の最新情報」(9 月)
・「Thomson の製薬会社向けサービスの最新情報」(10 月)
・「Ovid の e-Resource Management Solution ：統合検索からフルテキスト管理ツールまで」(12 月)

検討会：3 回
・「PubMed 検索の事例紹介」(1 月)
・「JDreamII の情報交換」(2 月)
・「JDreamII の機能改善についての意見交換とサブヘディング一覧」(5 月)

検索演習：1 回(7 月)
・下記テーマを各自検索し、全員で検討
（1）イオン性ヨード化造影剤の副作用
(MELINE と EMBASE で検索し、重複を除くこと。過去 10 年位)
（2）海外データベースで「横紋筋融解症が治癒すればミオグロビン尿は改善する」という文献
（3）糖尿病薬(GLP-1、DDP-IV 関連)の臨床試験および副作用についての文献
（4）腹膜刺激症状のない胆汁性腹膜炎

3）インターネット／ビジネス分科会（主査：渡邊　晃氏）
（1）開催：計 11 回（8 月を除く毎月 1 回　INFOSTA 会議室にて開催）
参加者：延べ 49 名、1 回平均 4.5 名（3～11 名）
登録者：32 名（平成 18 年 10 月時点。前年度比△7 名）

（2）研究テーマ
インターネット社会関係
A. 電子政府の進捗状況（6 月）：構築状況の評価機関・団体、国際比較、評価基準・項目
B. 言語別ウェブ情報量（7 月）：日本語の順位、言語人口一人当たりの言語情報量比較
C. 用語「情報産業」（9 月）：用語の起源、最早出現時期情報

ビジネス・社会動向関連
D. 用語「スマイルカーブ、エコ教育」（9 月）：意味、起源及び最早時期情報
E. 国・自治体の予算情報（10 月）：各国・日本各自治体予算、推移、比較情報
F. 日本の都市人口情報（12 月）：都市人口の割合（公式サイト)、関連統計
G. 耐久消費財の平均使用年数（1 月）：家電製品、デジタル製品などに関する情報源
H. 各国の炭酸ガス排出量（3 月）：情報源、最新データ、各国 1 人当たり排出量と順位等
I. 主要輸入農産物と遺伝子組み換え品（2 月）：統計サイト、最新ﾃﾞｰﾀ、組換え品の割合
J. ワインの生産量、消費量情報（4 月）：国別・品種別・都道府県別・一人当たり統計
K. アルコール飲料生産者数情報（11 月）：フランス・ワイン、日本酒の各国内蔵元数

その他

L. 富士通訪問、施設見学会（5月）：技術情報センター、ジー・サーチ情報サービス等

M. おすすめ「統計リンク集」（7月）：統計局・省庁・大学図書室等のサイト、民間統計集

（3）紹介・交換した有用情報

（3A）新情報源の例

データベース（DB）

各国・地域情報データベース（OVTA：海外職業訓練協会）；Worldmapper（ミシガン大学）；失敗知識DB、「情報管理」記事、研究者人材DB（JST：科学技術振興機構）；

国際子ども図書館（国立国会図書館の支部図書館）、日経マーケットアクセス、ほか

産業・技術

技術戦略マップ／分野別技術ロードマップ、新エネルギー関連データ17年度版（NEDO：新技術開発機構）；産業技術史資料（国立科学博物館）；

産業財産権侵害対策・制度概要（発明協会）

ニュース

ジェトロ海外情報（日本貿易振興機構）；上海時報（NBonline 田中信彦氏）；AGRESTE, Primeur（仏農水省統計）；世界の人口、地理・科学・環境ニュースなど（徳江実氏）

新聞・雑誌

雑誌のオンライン書店（Fujisan.co.jp）；専門新聞協会の加盟社検索；

New York Times 過去紙（1851年以降の記事の無料試読）

ポータルリンク集辞書類

Eurostat［EUの統計］；Science Portal（JST）；辞書・翻訳ポータル（BeTranslated.com）シソーラス（類語）検索（言語工学研究所）；Weblio（ウェブリオ）；情報セキュリティに関する用語辞典（総務省）；中国語パソコン辞典（秋月久美子氏）；光技術用語辞典（オプトロニクス）；省エネルギー用語集（省エネルギーセンター）；環境用語集（国立環境研究所；環境情報普及センター）；原子力百科事典（JST）；騒音関係の用語解説（日本騒音制御工学会）；貨幣（通貨）の単位［世界諸国。歴史上…］；気象・天候用語リンク集（Earth System Research Laboratory）；ハイパー薬事典（ファーマ フレンド）；…

（3B）エンジン情報の例

機能利用方法技術動向ほか

Yahoo! の翻訳検索［英・中・韓・日4か国語対応］；Google の特許検索；goo の「ブログフィルター」；Yotophoto エンジン［写真・画像検索］；想－IMAGINE Book Search（国立情報学研究所）；Windows Live; Google Scholar［学術論文検索］；Knezon（クネゾン）［Amazon と各地図書館の連携蔵書検索］（クネヒト）；ロシア・中国の検索エンジン、…

（3C）役立ち情報の例

探索法　統計データの探し方（神奈川県資料室研究会）

操作法　ワード：○△囲み文字作成法（日経パソコンオンライン）

翻訳ほか　infoseek マルチ翻訳［邦文と英・韓・中・仏・独・伊・西・ポルトガル各国語相互］、多量文献の複写発注効率化法、公開市民科学講座（NPO法人 市民科学研究室）、…

4）　特許分科会　（主査：下川　公子氏）　開催12回　　原則として毎月第2金曜日に開催。

4月14日　定例分科会　2005年度4グループ制活動のまとめ
5月12日　定例分科会　2006年度新体制での活動開始：毎回担当幹事2名で内容を企画・進行
検索演習「サーチャー一級試験に挑戦　米国特許保有者の検索」
6月9日　定例分科会　検索演習「網羅性のある調査」
課題A　「ルテインを白内障の点眼薬に利用する方法」
課題B　「マイクロコンピュータを利用して省エネルギーを行う機能を有する冷蔵庫」
7月14日　定例分科会　講演会　「特許情報解析用ソフトの紹介」
講師　宍戸　広信氏　・　DJ ソフト社長
8月 4日　定例分科会　講演会　「IPDL 活用セミナー　海外編」
講師　山口　英彦氏　東京都知的財産総合センター
9月8日　定例分科会　検索演習
課題A　電機分野
課題B　化学分野　サーチャー試験1級問題から
10月　6日　定例分科会　講演会　「特許調査結果の活用について」
講師　糸賀　道也氏　元リコー特許部長　現：知財コンサルタント
11月10日　定例分科会　検索演習　「技術動向調査」
課題A　松食虫の駆除剤
課題B　家庭用省エネ冷蔵庫
12月8・9日宿泊研修会　① 講演会　「パテントサロン的　情報収集・情報発信・情報流動」
講師　大坪　和久氏　Web サイト　「パテントサロン」運営
② 検索演習　「特許出願前調査」
課題　「携帯用のスプーンとフォークのセット」
1月12日　定例分科会　ベンダー製品紹介　「ストラビジョン」　SBI インテクストラ㈱
2月9日　定例分科会　検索演習　12月宿泊研修の続き
3月9日　定例分科会　検索演習　「公開公報の情報提供用文献調査」
課題　特開2004-346060　請求項1の情報提供用の公知文献

OUG 特許分科会登録者約100名、毎回 30～40名の参加があり、活発な意見交換を行っている。
2006年度は、検索演習をできるだけ多くし、内容を深く掘り下げた勉強会となった。
分科会以外でも、OUG 特許分科会メーリングリストにより随時情報交換を行っている。
８月に懇親会、1月に新年会を開催。2月に SIG パテントドクメンテーション部会と交流会を開催。

９．２　ＳＩＧ

専門部会（Special Interest Group, 略称：SIG）は、特定の分野または専門技術に関心をもつ会員が自由に参加し研鑽を積む場として1984年10月に発足した。現在は、技術ジャーナル部会、パテントドクメンテーション部会、分類／シソーラス／Indexing 部会、Web サイト研究部会、

ターミノロジー部会の５グループがそれぞれ自主的に年間の活動テーマを企画し活動している。
2006年度の各グループの活動は以下の通りである。

1）　技術ジャーナル部会　　〔会員企業：14社（コアパーソン：持ち回り）〕
奇数月の最終金曜日に、合計６回の会議を開催した（幹事は持ち回り）。
会議は、担当幹事が用意した設問に沿って各社がそれぞれの現状を発表し、それに対して質疑応答を行うという形で進めた。2006年度の議題は以下のとおりである。
（１）英文の処理について
（２）電子ジャーナル配信について（講演）
（３）技報の構成についての調査
（４）技報の定期発行
（５）インターネットでの技報の公開
（６）論文第１ページの記載事項
（７）『技報』を利用した企業のＲ＆Ｄ活動分析
（８）図・表・写真の電子データの取り扱い

2）　パテントドクメンテーション部会／会員　８名（ｺｱﾊﾟｰｿﾝ：桐山　勉氏）　（毎月開催）
（１）TOSARグラフ図による特許情報の可視化研究をINFOPRO2006にて発表した。
（２）協会のホームページに組み込まれたパテントドクメンテーション部会のホームページで、活動状況を継続公開した。　また、INFOPRO2006でパネル展示に参加した。
（３）OUG特許分科会とSIGパテントドクメンテーション部会との交流会；昨年度に初めて企画実行したものを、今年も２月度に行い、両グループから代表的な発表を行った。
（４）Yahooのe-Groupにパテントドクメンテーション部会だけの非公開電子部会を継続開催し、毎月の部会活動に対する活性化補完の手段とした。
（５）World Patent Information専門誌のトピックス記事を使い、記事紹介輪講会を行った。
輪講会がメンバーの研鑽に役立っている。
（６）特別研修会を滋賀県長浜市で９月末に開催し、INFOPRO2006発表原稿を検討した。
「TOSARグラフの作成」を実施。功名が辻に関する歴史的な背景を勉強した。
（７）Fugmann理論の解説（3回シリーズ）の投稿準備として原稿作成中である。
第２回目にシリーズ原稿をTOSARグラフの活用を中心に方針を変更。
（８）知財関連月刊新聞の配信（特別無料サービス）を12月まで実施した。
（発明新聞の休刊に伴い、配信を中止。）
（９）外部知的財産団体への協力；メンバー代表の派遣
関西特許センター50周年記念事業企画委員会
今後の審査システム開発に向けた調査研究委員会
(10) メンバー間のトピックス情報交換
デジタル・レファレンス・ツールWikipedia、　中国特許庁と事務所の訪問記、など
(11)　欧州特許庁との交流会
特許情報フェアーの開催に合わせて、EPO部長のDr.Vacek氏と意見交換

3）分類／シソーラス／Indexing 部会　会員：18 名　（コアパーソン：山崎　久道氏）（毎月開催）

当部会は、インデクシング、分類、シソーラス、情報検索の諸問題について、理論および実務の側面から研究している。部会員は、研究者、情報検索実務家、図書館員、データベース製作者、検索等のシステム関係者などからなる。研究者もそのほとんどがかつて情報管理・情報検索の実務に従事した経験を有している。ほぼ毎月例会を開いて凝縮された討論を通じて研究を進めている。2006 年度は、F. W. Lancaster（著）“Indexing & Abstracting in Theory & Practice　第 3 版”（University of Illinois, Graduate School of Library and Information Science）の会員による輪読を継続した。原文献の representation の手法として、indexing のほかに abstracts の作成についても検討の対象とした。部会の運営方針として、輪読対象文献の理解とともに、関連するテーマについての部会員による幅広い討論を繰り広げるよう腐心した。

4）　Web　サイト研究部会　　会員：10 名（コアパーソン　橋田昌明氏）　（毎月開催）

2006 年度は月一回の会合を開き、以下の活動を行った。

（1）　図書検索システム関係

・本システムは企業内実務システムとして図書登録件数も増加し、順調に稼働を続けているが、引き続き細部改良等のメンテナンスを行った。

また、Web サーバ(Apache)、データベースサーバ(MySQL)、スクリプト言語(PHP)などが全バージョンアップしたことに伴う各種設定を見直し、稼働環境を新バージョンによるもの切り替えた。

なお、図書検索システムの Linux への移植に関しては、着手したものの今年度は完成することが出来なかった。2007 年度の主要課題としたい。

（2）　図書室業務への Xoops などの利用可能性の研究

・本年度には、オープンシステムの Web 作成ツール Xoops などの図書室業務への利用可能性を研究することを目標としたが、会員の個人 PC への実装は行ったものの、今年度もそれ以上進めることは出来ず十分な成果を上げることが出来なかった。

これらに関しては、引き続き来年度以降も取り組む予定である。

（3）　Linux 関係

・Linux については、ディストリビューションのバージョンアップ、会員各個人 PC の買い換えなどが多く発生し、再インストールを余儀なくされた。

この作業を通して Linux への理解は少しずつ深まりつつあるが、自由に使いこなすという目的を達成したとは言い難い。

また新しい試みとして、近年話題となっている Windows の上で Linux を動かすいわゆる「仮想環境」の構築を行ったが、このことは Linux への取り組みに新たな展望を開くものであったと評価している。

（4）INFOPRO2006 での紹介展示

・昨年に引き続き、11 月に開催された INFOPRO2006 に情報科学技術協会の活動紹介の一環として当研究会の紹介文を展示した。

なお、紹介文は 昨年同様 Microsoft Office 互換のオープンソースオフィススイーツ「Open

Office.org」を使いLinux上で作成した。

（5） その他

・その他、特別際だった成果とは言えないが、メンバーが日常的な場面で抱えた諸問題(自宅での無線ネットワーク環境の構築、HDD破損によるOSの再インストールなどのPCトラブルの解決等々)について、相互に意見を出し合って解決することで、全員のPCやOSの基本についての理解、ネットワークに関する知識の一層の向上を図ることが出来た。

5）ターミノロジー部会　　会員：15名（コアパーソン：太田泰弘氏）　　（隔月開催）

情報科学技術の基礎領域に位置づけられるターミノロジーについて、その理論および実際に関する学習および研究をおこなうことを目的として、2004年5月に設立。原則として隔月開催とし、2006年度は2月までに6回実施した。

第12回（2006-03-31）：専門用語の国際化で生ずる文化摩擦(用語戦争)/伝統食品の輸出振興過程で避けて通れない課題（講師：太田泰弘）

第13回（2006-05-19）：ISO 1087-1:2000のJIS化

第14回（2006-07-14）：：専門用語に関する仲本提案への質疑を中心に

第15回（2006-09-29）：ISO/TC37北京会議およびTSTT06に参加して

第16回（2006-12-01）：ISO 1087-1のJIS化

第17回（2007-02-02）：翻訳における品質とその管理（講師：和田　峻）

１０．関連団体との交流

1）　会員として加入

・機械振興協会　　賛助会員（継続）

・科学技術振興機構　賛助会員（継続）

2）　他団体より後援を受けたもの

専門図書館協議会、日本医学図書館協会、日本情報処理開発協会、日本図書館協会

3）　他団体に共催、後援、協賛したもの。[　]内は主催団体名

・情報学シンポジウム　[日本学術会議]

・第15回整理技術・情報管理研究集会　「TP&Dフォーラム2005」[TP&Dフォーラム実行委員会]

・第17回専門用語シンポジウム　[情報知識学会]

・その他　情報メディア学会、アートドキュメンテーション学会、横断的アーカイブズ論研究会、未踏科学技術協会、国立情報学研究所、国立国会図書館、情報活動研究会　など